

|             |   |
|-------------|---|
| 名 称         | 第7回 鹿沼市総合計画審議会議事録   |
| 日 時         | 平成28年12月16日(金) 13:30~15:15  |
| 場 所         | 鹿沼市役所 新館3階 302会議室(東西)   |
| 出 席 者       | 委員14人、市側20人   |
| 内容及び<br>結果等 | <p>(進行：袖山課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさんのこれまでの意見を踏まえた資料となっている</li> <li>・団塊の世代が後期高齢者になる上での考え方も盛り込まれている</li> </ul> </li> <li>○ 市長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い内容の計画であり、現場にいる委員さんの意見を伺いたい</li> <li>・秋祭りがユネスコ登録となったが、文化の保存と継承も重要</li> <li>・いちご市の仕掛けはこれからも考えていきたいし、協力いただきたい</li> <li>・新・鹿沼宿のライトアップも大変反響があり、ちょっとしたアイデアでできた</li> </ul> </li> <li>○ 新委員紹介</li> <li>○ 議 事 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)「第7次鹿沼市総合計画」について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 1-1、1-2、2</span></li> </ul> </li> </ul> <p>【榎本委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の考え方は、教育・障がい者だけでなく、社会政策の理念。福祉や人権や産業全般が関わってほしい</li> <li>・社会の変化が激しく、例えば部活動のあり方も学校の中で、社会の中で変わってきており、考えていってほしい</li> </ul> <p>【大森委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の計画書はボリュームが多すぎる。もっと読みやすい、メッセージ性を込めた計画書がいいのではないかな。次の計画はそうしてほしい</li> <li>・市役所の計画に見えてしまう。市民が見たとき、役割を感じられるように、市民と何をつくるのかということが大切</li> <li>・計画は入口に過ぎない、はじまってからが大切。もっと市役所が身軽に作れる計画書の方が良いのではないかな</li> </ul> <p>【島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフ等の出典や調査年度等を表記すること。巻末でもいいので</li> <li>・スポーツの振興について、部活動をやりすぎる等の問題を防止し、適切に指導してほしい。家庭の日を重視してほしい</li> <li>・遊び場が無いという保護者の意見が多い。真岡市の運動公園は年齢段階に応じた遊具がエリア分けされており、こういった子どもも保護者も楽しめる施設が早急に必要</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜裏面へ続く＞</p> |

内容及び  
結果等

【萩原代理】

- 課長は議会对応のため欠席
- 基礎自治体の計画書なので、どうしてもゆりかごから墓場まで、総花的になってしまう
- 地域においては、特に中山間地など、縦割りでなく横の取組が必要（買い物・交通など）。分野横断的に、小さな拠点形成などに取り組んでもらいたい

【石川委員】

- 若者は就労先を起点に生活拠点を形成するため、一度外に出た若者が戻ってくるのは難しく、まず市内への就業を支援していくことが大切

⇒

《教育長》

- 部活動のあり方やスポ少のあり方は、新聞報道等もされているが、各団体と連携し、子どもたちの健全育成に努めていきたい
- 教育ビジョン2期計画を策定中であり、整合性も図りながら検討していきたい

《保健福祉部長》

- 子どもの遊び場は、保護者からの要望もあるし、市長の公約でもある。真岡市は屋外施設である。どちらかというニーズが高いのは屋内施設であり、整備の検討を進めている
- 豊かな自然で子育てしやすい環境などをPRする動画作成も、検討を進めている

⇒

【鈴木節也委員】

- 親と子だけでなく、親同士、ママ友の情報交換が重要だという話も聞いている

⇒

《市長》

- 最近、公園の作り方が変わってきている。昔は日本庭園の様にしっかり木を植えるなどしていたが、今は四方から見通しが良く、子どもからお年寄りまで幅広い年代が自由に使える公園が求められている
- 場所によっては、そのような形にリニューアルすることも検討したい
- 壬生のわんぱく公園などとよく比較される。1万人プールやみかも山公園のような県整備のものと比較されると少しつらいが、使いやすく切り替えていくことは必要だと考えている

【鈴木貢委員】

- 市民交流は、市民に理解してもらい、入ってもらうことが大切
- 海外交流は、ホームステイ等、来てもらうことから進めてもいいのでは
- 国内交流は、引田の農村公園など、足立区民にバスで来てもらい、農業体験の交流が進んおり、そういった取組の推進が必要
- 再生可能エネルギーの活用（太陽光補助）の件数が減っている
- 鹿沼は豊富な水を生かして小水力を推進しては(電力買取価格があまり下がっていない)
- 大きい河川は許認可が大変だが、農業水路や釣り堀の水路などの排水で3kwの発電が可能（10万円台の設備でできる）
- そういった補助を進めてほしい

<裏面へ続く>

【宇賀神委員】

- いちご市宣言は大変ありがたい
- 農業も農協も転換点を迎えている
- 県の計画、農協の計画もあるが対象者は同じであり、各計画との整合性をとってほしい
- 中山間地の獣害対策が深刻であり、農政と林政で連携し、対策を進めてほしい
- 耕作放棄地は農地バンクで出しているが、やはり、農道などの環境が良くないので借り手が見つからない。農業基盤の整備が必要

【木嶋委員】

- 子ども達にどんなまちを残していくか考えると、秋祭りという資源が重要だが、このまま人口が減ると、維持することが難しくなるのではないか。全市民の関心・参加が必要
- 子ども達のお祭りへの参加・協力を進めるために、思い切った決断で、まちなかへのはたらきかけをしてほしい
- 消防団は何をしているかということをもっとPRしてほしい
- 人口を増やすには市の支援がもっと必要。1人目から2人目への支援を。

【大塚委員】

- 地域の福祉活動へのポイントを訴え続けており、大田原市等では、健康スポーツにもポイントを付与している
- お互いに支え合う地域活動、福祉活動が理想

⇒

【鈴木節也委員】

- 昨年の水害で消防団の姿を見て、入団を決めた人もいと聞いている

《経済部長》

- 来年度から野生鳥獣対策として市の報奨金を通年で支給する
- JAと中山間地の地域別意見交換実施したので、そういった意見も踏まえて野生鳥獣の対策を進めていく
- 秋祭りは各町内で育成会も参加していると思うが、子ども達につながる具体的な方策も考えていきたい

《環境部長》

- 第4次環境基本計画の中で、小水力の推進を掲げており、こういった支援ができるか考えていきたい

《消防長》

- これまで消防団のイメージアップやPRを実施してきたが、更に何か考えていきたい

《市民部長》

- 市民交流は、ふらっと等を拠点に一層進めていきたい
- ホームステイの受け入れは、国際交流協会と連携しながら進めていく

<裏面へ続く>

【小和田委員】

- 西中核がまだ1つ空いている
- 企業誘致、産業推進を進めてほしい。金融機関として協力していく

【小太刀委員】

- 商圏、良い組織、良い経営に努めていく
- なんのためにやっているのか？考えながら一つ丁寧に事業を進めてほしい

【早山代理】

- 計画の内容をいかに市民に伝え、参画を進めていくことが重要
- 事業所・商店が減っており、事業承継が問題。産業の火を消さないためにという点を盛り込んでほしい（県のセンターの活用などもある）

【星野委員】

- 障害者等の置かれた社会環境はまだまだ十分ではないが、こういった計画書に意見を反映する機会があり良かった

【大森委員】

- 自分たちが地域の魅力を忘れてしまっている、知らないこともある
- 地域をつなぐ、紡ぐという意識や産業などの継承も必要

⇒

《経済部長》

- 新産業団地の整備を急いで進めている
- 空き工場バンクも昨年2件売買が進んだ
- 事業承継、地場産業の育成も進めていく

《企画課長》

- 一部文言の修正など進める
- 穂本委員からも発言があったが、時代の変化が激しく、状況に応じて対していく
- 地域をつなぐ、紡ぐという意見も再度検討していきたい

(2) その他

- （事務局）今後の策定スケジュール等を説明

《市長》

- 本日が実質的な最後の審議ということでお礼をのべたい
- 熱心にご協議、ご提言を経て、計画を作ってきたが、同具現化していくかが大切
- 足りないところを全て補うことはできないが、自分たちの周りで気づかないことはまだまだある
- 秋祭りが世界に認められたことや、いちごが東京大田市場で非常に高い評価を受けていること等、市民の皆さんにもPRしていきたい